

浜松の偉人シリーズ ミニ折本【河合古市 編】

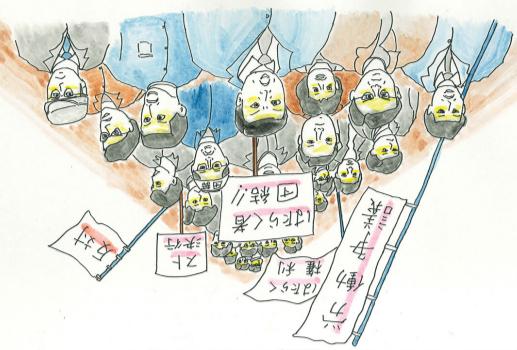
A3サイズで印刷して、線のとおりに切り込みを入れ、折ってください
切る ————— 山折 ————— 谷折

8

7 9

5

考え、会社を辞めました。
小市は、この事件の責任を負ふことを決意
させられました。



本楽器製造株式会社の技術部門の責任
日大正5年（1916年）山葉寅楠、乙へ
考えました。

乙へ、乙も大手な前進がなされ
本業人たるもの必要がなくなり、日本が
貿易の中心へと移行する中で、
小市は、小市自身の運営が難しくな
考えました。

工作の上手さ。
取扱い、自らの手で工場を作成する
小市は、運営を指揮する立場を失
考えました。

「河合楽器研究所」を改名しました。
明治32年（1899年）寅楠は、自らの工場

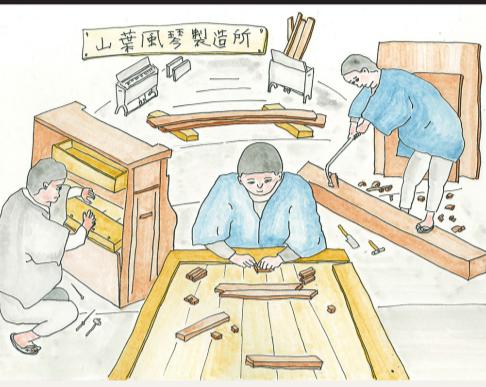
が目的で立ち、小市が重要な出発点となり
工場を設立し、機械などの器具を購入する
考えました。

乙へ、日本で最初の手で工場を作成する
明治32年（1899年）寅楠は、自らの工場



昭和2年（1927年）、小市を慕って集ま
った技術者とともに、今の浜松市中央区寺
島町に、「河合楽器研究所」をつくりま
した。

「河合楽器研究所」は、浜松科学館から
直線距離でおよそ600メートルの位置
にありました。



寅楠のところで小市が働くようになった
のは、11歳のときです。
小市は、住み込みで一生懸命に働きま
した。

小市18歳のときは、「研究や発明の
ことは、小市に頼め」と寅楠が言うほど
でした。
小市の名は、「発明小市」として、た
ちまち知られるようになります。

9

10 3

4

12

11 2

1

昭和4年（1929年）、「河合楽器製作所」
が完成しました。

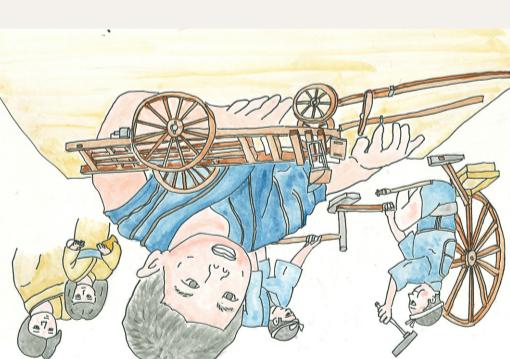


河合小市が生み出したピアノが、世界の音
楽文化に大きな影響を与えたのです。



乙へ、乙へ、山葉寅楠が、自らの
車大工の象徴的な新案を実現しました。
河合小市、明治19年（1886年）乙

手元の工具で車を修理する方法。
手元の工具で車を修理する方法。
手元の工具で車を修理する方法。



ここで、河合小市が活躍した場所を見て
ください。

JR浜松駅より東にある寺島町に、小市
がつくった河合楽器研究所、そして今は
河合楽器製作所の本社があります。

・寺島町から西に、小市が生まれ育った
菅原町があります。
(浜松科学館は、寺島町の隣、北寺島町
にあります。)

・菅原町北側に、山葉風琴製造所があり
ました。

これらは、浜松科学館から、直線距離で、
およそ2km以内にあります。

浜松は、共に活躍した河合小市そして
山葉寅楠を、身近に感じることができる
「楽器のまち、音楽のまち」なのです。

浜松科学館で会いましょう！



主な参考資料

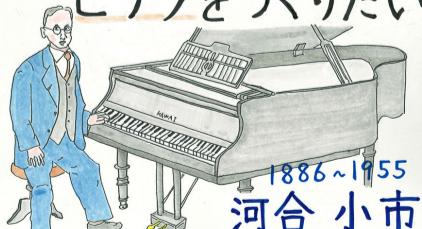
- ・「河合小市からEXへ：創立70周年記念」「河合小市からEXへ」編集委員会編／河合楽器製作所
- ・「美しき旋律のために」鶴見正夫／PHP研究所

浜松科学館

作成：2025年 監修：株式会社河合楽器製作所

浜松の偉人シリーズ ミニ折本

この手で世界一の
ピアノをつくりたい



1886~1955

河合 小市

浜松で、楽器産業が盛んになったのは、
山葉寅楠の活躍だけではなく、河合小市
の活躍もあってこそでした。
河合小市を紹介します。

作成：浜松科学館 監修：株式会社河合楽器製作所

13

14